

富山市ガラス美術館 企画展

開館 10 周年記念

めぐりあう今を映す

日本の現代ガラス 1975-2025



- 展覧会名** 開館 10 周年記念：めぐりあう今を映す—日本の現代ガラス 1975-2025
- 会 期** 2025 年 11 月 1 日（土）～2026 年 1 月 25 日（日）
- 会 場** 富山市ガラス美術館 2・3 階 展示室 1-3
- 主 催** 富山市ガラス美術館
- 助 成** 芸術文化振興基金
- 後 援** 北日本新聞社、富山新聞社、NHK 富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、  
チューリップテレビ
- 開場時間** 午前 9 時 30 分～午後 6 時  
（金・土曜日は午後 8 時まで、1/2-3 は午後 5 時まで、入場は閉場の 30 分前まで）
- 閉 場 日** 第 1・3 水曜日、12 月 29 日（月）-1 月 1 日（木・祝）
- 観 覧 料** 一般 1,200 円（1,000 円）、大学生 1,000 円（800 円）  
※（ ）内は 20 名以上の団体  
※本展観覧券で常設展（4 階、6 階）もご覧いただけます  
【前売券取り扱い（会期前のみ販売）】一般 1,000 円  
TOYAMA キラリ 1 階総合案内／アスネットカウンターTel 076-445-5511

※下記に該当する方は観覧料が無料となります。

- 高校生以下の方
- 富山市に住民登録がある 70 歳以上の方
- おでかけ定期券をご提示の 65 歳以上の方
- 身体障害者手帳、療育手帳、または精神障害者保健福祉手帳をご提示の方及びその介助者（1 名）
- 団体引率者

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号  
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM

## 展覧会概要

富山市ガラス美術館の開館 10 周年を記念し、日本の現代ガラス芸術の歴史と現在を紹介する展覧会を開催します。国内では 1970 年代後半から、作家個人が自らの手でガラス制作を行う動きが本格的に広がり始めます。作家の多くが会社に所属し、素材を扱う作業を職人と共に行って来た従来のあり方から転換した背景には、1977 年に日本初のガラス専門課程が多摩美術大学に開設されたことや、1978 年の第 8 回世界クラフト会議・京都を契機とする、ガラス芸術分野での国際交流の拡大がありました。作家たちは実験的な制作を重ねてこの素材と関わりながら、ガラスだからこそ生まれ得る表現を追求してきました。さらに 1990 年代にかけての空間的かつ大規模な表現への展開を経て、2000 年代に入ると、作家独自の制作手法を編み出す動きの活発化や、変化し続ける社会情勢と呼応するような作品の増加により、ガラス表現はますます多様な広がりを見せています。本展覧会では今日にいたる激動の 50 年の動向を振り返りながら、各時代を代表する作品や、ガラスの新たな可能性を提示する表現を紹介します。様々な巡り合わせの中で生まれる、作家たちの「今」の実感が映し出された作品の数々をお楽しみください。

## 展覧会のポイント

(1) 富山市ガラス美術館の開館 10 周年を記念する企画展第 2 弾！

総勢 53 作家による作品 86 件を展示します。

(2) 1975 年から 2025 年まで、

日本の現代ガラス芸術の歴史と現在を紹介します。

(3) 各時代を代表する作品や、新進気鋭の作家による

ガラスの新たな可能性を提示する表現が集結します。

QR コードを読み込むことで、本展覧会の概要を多言語にてご覧いただけます。  
(日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語に対応)

QR Translator.



### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号  
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM



## 出品作家（53名）

伊藤 孚、濱田能生、ジョエル・フィリップ・マイヤーズ、藤田 喬平、浅原千代治、  
 マーヴィン・リポフスキー、アン・ヴォルフ、フィン・リュンゴー、  
 ハーヴェイ・K・リトルトン、ドミニク・ラビーノ、倉本陽子、野田 收、野田由美子、  
 高橋禎彦、渋谷良治、池本一三、大村俊二、西悦子、扇田克也、行武治美、多田美波、  
 イワタルリ、吉本由美子、高橋禎彦・田嶋悦子、瀧川嘉子、生田丹代子、家住利男、  
 神代良明、津守秀憲、度會保浩、竹岡健輔、藤掛幸智、佐々木雅浩、塚田美登里、  
 小島有香子、伊藤真知子、小川郁子、江波富士子、山本 茜、大室桃生、渡辺知恵美、  
 佐々木類、小田橋昌代、笹川健一、本郷仁、小曾川瑠那、横山翔平、今井瑠衣子、広垣彩子、  
 佐藤静恵、小林千紗、寺澤季恵、松尾里奈、ほか（展示導線順）

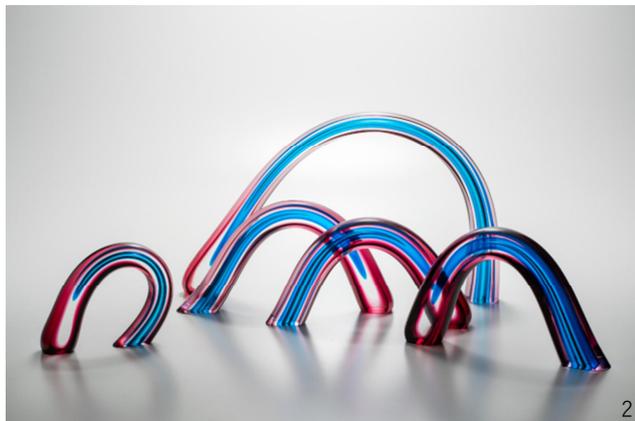
## 展示内容（全6章構成）

### 第1章 個人としての創造の時代へ

1970年代前半まで、日本のガラス芸術分野においては作家が作品のアイディアやデザインを考案し、ガラスを扱う作業は職人の手によって行われるのが主流でした。こうした状況が変化したきっかけの一つが、多摩美術大学における日本初のガラス専門課程の開設です。これに尽力したのが、同大学で長年学生の指導に当たった伊藤孚でした。日本でもガラスを専門的に学べる場所が必要との思いを抱いていた伊藤は、1975年にドイツでのシンポジウムに参加し、自らの手で作品を制作する海外のガラス作家達と出会ったこと、そしてヨーロッパ各地のガラス教育機関を訪ねたことを通してその思いを一層強め、1977年に母校の多摩美術大学でガラス教育を開始します。（→次ページへ続く）



1



2

- 1 伊藤孚《宙吹硝子 巻紙》1985年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：未正真礼生  
 2 浅原千代治《ファンタジー》1977年、作家蔵、撮影：大滝恭昌

#### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号  
 Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
 Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
 ガラス美術館  
 TOYAMA  
 GLASS ART MUSEUM

(→前ページ続き)

また、アメリカで巻き起こった「スタジオグラス運動」の重要人物を含む、多くの海外作家が来日してレクチャーやデモンストレーションを行なった1978年の第8回世界クラフト会議・京都の開催も、当時の日本のガラス作家達に大きな影響を及ぼしました。これらの出来事を経て、日本でも作家が自らの手でガラス制作を行う動きが本格的に広がり始めます。

## 第2章 国際交流の拡大

1980年代、ガラスを扱う若手作家は次々と海外に渡り研鑽を積むようになります。海外大学のガラス科への留学、ワークショップ（講師の作家がデモンストレーションや制作指導を行う短期講座）への参加、作家工房やガラス会社での勤務などを経て、帰国後は自らの工房を設立して制作を継続しながら、その後増加していく国内のガラス教育機関で指導者として活躍する作家も多く現れます。海外経験を持つ作家が主導し、日本に海外から作家を招いてワークショップを実施する動きも見られるようになります。

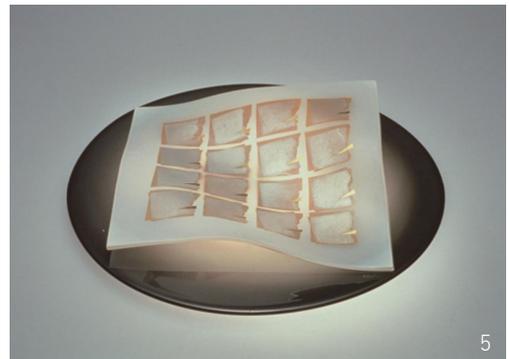
同時期には美術館やギャラリーでも国内外の現代ガラス作家が積極的に紹介され、国際的なガラスのコンペティションも開催されました。80年代は海外のガラス関係者との交流が急速に拡大し、国際的な動向を含めた現代ガラス芸術の最新の状況が広く紹介され始めた時代であったと言えるでしょう。



3



4



5

- 3 野田收《波のかたち》1984年、作家蔵、撮影：野田收
- 4 高橋禎彦《ARC》1999年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：斎城卓
- 5 倉本陽子《陰影の連作 II》1991年、作家蔵

### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号  
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
Email [bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp](mailto:bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp) Web [toyama-glass-art-museum.jp](http://toyama-glass-art-museum.jp)



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM



### 第3章 空間に展開する表現

ガラスを素材とするスケールの大きな彫刻やインスタレーションの制作は、1970代の多田美波による作品を早期の例に、1980年代後半から1990年代にかけて多くの作家が取り組むようになります。前半で紹介する行武治美、多田美波、イワタルリ、吉本由美子らは、複数のパーツを繋ぐ、積む、並べる等の方法により、空間へ拡張するような表現を展開しています。後半で紹介する瀧川嘉子、生田丹代子、家住利男らは、いずれも板ガラスを積み重ねて接着する積層の方法によってダイナミックな作品を実現しています。

本章で紹介する作家達は、ガラスをこれまでにない方法で扱う自由な視点によって、この素材で制作可能な作品規模を大幅に広げていきました。こうした作家達は屋外や建築空間のための作品の制作に多く取り組んでいるのも特徴です。



6 多田美波《双極子83-1》1983年、富山県産業技術研究開発センター所蔵、撮影：柳原良平

7 瀧川嘉子《境 KYOH No. 46》1990年、北海道立近代美術館所蔵

### 第4章 実験と探究から創造する

2000年代に入り、国内ではますます多様なガラス表現が登場しています。この背景には、ガラスの専門教育を行う機関やガラス工房の相次ぐ設立、専門美術館の開館など、現代ガラス芸術を取り巻く環境が充実し、ガラスを扱う作家が増加したことが要因の一つに挙げられます。こうした状況は、作家達が独自の制作手法を編み出したり、ガラスと関わる新たな方法を希求する動きを活発化させたと言えるでしょう。

第4章の前半では、ガラスという素材を新たな視点で解釈するような実践や、素材・技法を複合的に組み合わせる実験的な試みにより、既存のイメージにとらわれない、しかしこの素材だからこそ生まれ得る表現を行う作家を取り上げます。後半では、伝統的な技法や歴史的な文物を参照しながら自身の表現を探究し、現在において新たな文脈を創造するような制作に取り組む作家を紹介します。

#### お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号  
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM





8 神代良明《返信 #7》2004年、富山市ガラス美術館所蔵、撮影：斎城卓

9 度會保浩《breathing-eagduru》2024年、作家蔵

10 大室桃生《街》2020年、作家蔵、撮影：大隅圭介

11 山本茜《源氏物語シリーズ第十九帖「薄雲」（雪明り）》2011年、中谷宇吉郎 雪の科学館所蔵、撮影：鍋島徳恭

## 第5章 記憶と記録を往来する

2000年代以降、国内での大規模災害の多発により、日常の唐突な喪失を何度も目の当たりにしてきた私たちにとって、記憶を留めること、記録を残すことは何かを失わないための切実な行為と言えるでしょう。本章では「記憶」と「記録」に焦点を当て、これらに関連する作品を紹介します。

記憶を記録すること、あるいは記録から記憶を呼び起こすことは、今はない風景や人の存在、あるいは自身が経験した感覚を確認し、新たな形で裏付ける行為であると言えます。ここで紹介する作品には、私的な記憶や経験を表現として形に留めようとする作家達の試みが反映されています。各々が取り扱うのは自己の記憶や経験の場合もあれば、他者のもの場合もあり、保存することに適したガラスという素材がそれらを記録する媒体となっています。記憶や記録と向き合うことでいかなるものが見出されるのか、それぞれの表現から読み解いていきます。



12 笹川健一《Discontinuous》2024年、作家蔵 ©Masashi Kuromoto

13 本郷仁《残景》2022年、作家蔵

14 佐々木類《Reminiscences of the Garden-from Jacob Knapp-》2022-2023年、作家蔵、撮影：来田猛/写真提供：アートコートギャラリー

### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

## 第6章 今を生きる身体のかたち

2010年代から現在までの間に、ガラスと「身体」に関わるテーマを接続して独自の表現を行う作家が次々と現れているのは注目すべき動向です。例えば横山翔平や小林千紗の作品は、高温に熱して溶けたガラスを扱うホットワークや、自らの息で造形する吹きガラスでの制作において、作家自身の身体性が素材に投影されることが表現の重要な要素となっています。佐藤静恵や今井瑠衣子の作品には、自己の身体と世界との境界にある皮膚や衣服をガラスと重ね合わせようとする思考が見られます。広垣彩子、松尾里奈、寺澤季恵らは身体的なモチーフの制作を通して、生命のあり様の表出を試みています。

ここで紹介する作家達は、ガラスとの直接的な関わり合いの中で、今を生きる自己と素材を融合するような表現を展開しています。こうした表現は、1970年代後半から広がった「自らの手でガラス制作を行う」方法だからこそ生まれ得たと言えるでしょう。ガラスがそれぞれの作家の「今」の実感を映し出す素材となり、幅広い表現が生み出されている状況をご覧いただければ幸いです。



15



16



17



18

- 15 横山翔平《Amorphous 25-2》2025年、作家蔵、撮影：柳原良平  
 16 今井瑠衣子《体温の肖像》2025年、作家蔵、撮影：柳原良平  
 17 松尾里奈《unknown unknowns》2023年、作家蔵  
 18 寺澤季恵《生生1》2023年、作家蔵

### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号  
 Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
 Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM



## 関連プログラム

### ワークショップ「キルンワークでガラスのオブジェを作ろう」

- 日時：12月6日（土）、13日（土）各日午後1時30分から3時間程度
- 会場：富山ガラス工房第2工房
- 講師：渋谷良治（本展出品作家）
- 対象：小学5年生以上（小学生は要保護者同伴）
- 定員：12名程度 ※両日の参加が必要です。
- 参加費：2,000円、事前申込み制（応募多数の場合は抽選）

### 出品作家によるクロストーク「日本の現代ガラスの黎明期を語る」

- 日時：12月21日（日）午後1時30分から2時間程度
- 会場：富山市ガラス美術館2階ロビー
- 講師：野田収、野田由美子、渋谷良治
- 対象：どなたでも ※参加無料、申込み不要

### 特別講座「日本のガラス芸術史」

- 日時：2026年1月10日（土）各1時間程度
  - (1) 「弥生から江戸時代まで」午後1時30分から  
講師：土田ルリ子（富山市ガラス美術館 館長）
  - (2) 「明治から現代まで」午後2時45分から  
講師：中島春香（本展担当学芸員）
- 会場：富山市ガラス美術館2階ロビー
- 対象：どなたでも
- 参加無料、事前申込み制（応募多数の場合は抽選）

※関連プログラムの詳細は美術館ウェブサイトや公式SNSなどでお知らせします。

※プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。最新の情報は美術館ウェブサイトをご確認ください。

### 学芸員によるギャラリートーク

- 日時：11月15日（土）、12月14日（日）各回午後2時から
- 場所：富山市ガラス美術館2・3階 展示室1-3
- 参加無料、申込み不要
- 展示室への入場には、本展観覧券が必要です。

#### お問合せ

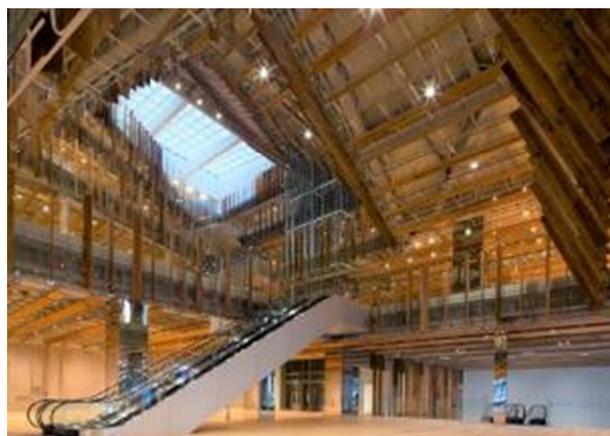
富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号  
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310  
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



## 美術館概要



19 富山市ガラス美術館 外観



20 富山市ガラス美術館 内観

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015年8月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフリー氏によるインスタレーション作品を展示する6階「グラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する4階「コレクション展」や2階から4階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では1950年代以降のグラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

### 交通アクセス

〔富山駅から〕

○徒歩 20分 ○市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩 1分

○市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩 2分

（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約 10分）

〔富山空港から〕

○地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩 4分

### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email [bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp](mailto:bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp) Web [toyama-glass-art-museum.jp](http://toyama-glass-art-museum.jp)



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM



## 美術館公式 SNS アカウント



Instagram

アカウント名  
toyamaglassartmuseum  
美術館



Facebook

アカウント名  
toyamaglassartmuseum



Youtube

チャンネル名  
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス  
美術館

## 報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館

Tel. 076-461-3100 Fax. 076-461-3310

E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp (代表)

広報担当：宇於崎、小谷 展覧会担当：中島

### 広報用画像の貸出しについて

p. 3-7、9 の画像 1-20 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p. 11 の画像貸出し申請書の使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

### お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp



富山市  
ガラス美術館  
TOYAMA  
GLASS ART MUSEUM



年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： \_\_\_\_\_  
 Tel： \_\_\_\_\_  
 Fax： \_\_\_\_\_  
 E-mail： \_\_\_\_\_  
 住所： \_\_\_\_\_  
 団体名： \_\_\_\_\_

### 富山市ガラス美術館 画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「開館 10 周年記念：めぐりあう今を映す—日本の現代ガラス 1975–2025」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： \_\_\_\_\_

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体  
その他（ \_\_\_\_\_ ）

3. 掲載の趣旨  
別紙のとおり（媒体資料を添付してください） \_\_\_\_\_

4. 掲載（放映）日時： \_\_\_\_\_

5. ご希望の画像番号： \_\_\_\_\_

- 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
- 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
- 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- 商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
- 画像の2次使用はご遠慮ください。  
 ※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。  
 ※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
- 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
- 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3310